

# 「いま信じること！！」

～信じるものに伴う栄光！！～

ルカ 1:5～20

市民クリスマスで淀川キリスト病院の柏木先生が語られたメッセージは素晴らしいものでした。ホスピスにおいての第一人者の彼が2500人の方々を看取っていく中で「言葉の重み」について語られました。「生命」は有限であり「いのち」は永遠であるという内容でした。私たちはこの地で生かされていますが、その生きざまを通して神様の栄光が現わされていくためには「いのち」を見出していく事なのです。クリスマスのアドベントに入り、今週は2本目のろうそくに火が灯りました。このろうそくは正に「いのち」であり、私たちは、自らの「いのち」を燃やし、暗闇に光をもたらしたイエス様の生きざまを見出すのです。

## 1. 信じるとは現実を乗り越える力！！ 時がくれば実現することば

私たちは「信じる」という事といつも闘っています。相手に対して、また時に神様に対してできても信じることの葛藤が生じることがあります。相手を「信じる」事ができなくなることで人間関係のトラブルは起きてしまいます。私たち人間にとって「信じる」事は一番大事なことであり一番難しいことなのです。クリスチャンの人生は誰かを見て神様を信じるのではなく、本当の神様を信じようとする人生です。ですが私たちは目に見えるものを願ってしまうことで結果的に信じる事が難しくなり、無になってしまいます。どんなに素晴らしい人がいても、その人を信じるのは難しいものです。

では、聖書は私たちに何を見るように伝えているのでしょうか。

それは信じることによる未来ではなく「将来」なのです。「生命」と「いのち」に違いがあるように「将来」と「未来」も違うのです。

私たちは信じる事で現実を乗り越えることができるという事を知らなければなりません。この世は生まれたその瞬間から信じられない事が毎日起こります。これは悪魔がアダムとイブの時からしたかった事です。「疑い」を彼らに与えたのです。私たちはいつも「疑いのウイルス」に狙われているのです。ですから私たちは私たちの心を整えなくてははいけません。

もう一つ大事な事は「妥協」をしないことです。現実がある以上100%にする事はなかなかできません。頑張ったけど100%は整わなかったとしても、まあいいか、という妥協にならないためにはどうしたらいいのでしょうか。それは「終わっていない」ことを知る事です。現実を見るとその都度その瞬間で終わってしまいますが私たちは信じて待つ事ができるのです。

私たちの教会には受けたものを流し与えるという使命があります。それはあなた1人がするのではなくみんなの愛が集まることで始まるのです。ですからあなたがかけてはいけません。1人1人がその生きざまを持って輝こうとすることで暗闇に灯されるのです。クリスマスのこの4週間は私たちが本当の私たちに戻る時です。

## 2. ことばを慎む 整えられた者

では、あなたの輝きであり明るさを消してしまうものは何でしょうか。それは言葉です。言葉は、それがたとえ冗談であったとしても生きており力がありま

す。言葉を制しコントロールする必要があります。一番人を疑わせるのです。人から出る一つ一つの言葉、それはよく理解しないと全く違うものになります。人が言っている言葉だけを理解しようとすると思われない事が起こった時に、いつも狙われている疑いのウイルスにかかり脱線してしまいます。

ザカリヤが主の使いの言葉を聞き神の役割を果たすために言葉を止められました。(ルカ 1:18～19) 信じる事が出来なかった彼に神様は罰を与えたのではなく余計な言葉を話さず信じる事ができるように働きました。そして彼が信じて従った時に彼の言葉が戻ったのです。今日私たちがする事は「信じる」事です。あなたが変われることを信じ、あなたの隣にいる人が神様によって変わる事を信じ、無駄だと思える事が無駄ではないことを信じ、無理だと思える事ができると信じ、人間的にはなく神様が働いて奇跡をもたらすことを信じ、現実ではなく将来を信じ、不可能を可能であると信じ、人々が愛し合うことができることを信じることを。これがクリスマスにイエス・キリストが私たちに伝えられようとしていることなのです。

## 3. ことばに従う！神様との関係

神様との関係はことばに従う事なのです。私たちはことばに従う生き方を選んでいきたいのです。感情的になる時にはあなたの言葉と正しい言葉が交互に聞こえてきますが神様はあなたの耳で必ず正しい言葉を語られます。私たちは神様の言葉に耳を傾けていかなければなりません。神様は言葉をもって働かれます。今という偽りの現実ではなく神様が見せるのはそんな中であっても信じさせるという奇跡です。たとえ起こった事がマイナスのようであっても神様は信じる者には伝えるべき事を残して色んな方法で守ろうとしてくれるのです。そんな中で私たちが同じ事を繰り返さないようにするには ただ神様のことばを聞く事なのです。

最近、中南米のカトリックの方の2割がプロテストしているそうです。目で見えることでしか信じなかった人たちが、なぜ見えないものに目を向けて本当につながるようとしているのでしょうか。

それがイエス・キリストが2000年前に起こした奇跡なのです。十字架は目に見えるものでした。でもイエス・キリストがしたかったのは目に見えないものでした。私たちがそれに目を向ける事が神様との関係の回復なのです。神様が回復したいのは十字架で終わらせるのではなく十字架の上で罪を許された人間が神様にもう一度目を向けて関係を回復することなのです。

(要約者:西崎 真由美)

(12月10日)